

京都市南区基本計画策定委員会第2回会議 議事録

日 時：令和元年12月19日（木）9：30～11：30

場 所：南区役所B会議室

出席者：

氏 名	所 属	備 考
天野 広一	南区自治連合会（唐橋学区（中学区））、南区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会、南少年補導委員会	委員長
田中 一明	南区自治連合会（九条学区（東学区））、南区社会福祉協議会	
野村 良博	南区自治連合会（吉祥院学区（西学区））、南区共同募金会	
山田 信之	日本新薬株式会社総務部渉外担当部長（南区まちづくり推進会議）	
山田 正志	京都中小企業家同友会南支部	
矢田貝 宏美	市民公募委員	
植松 明彦	市民公募委員	
小野 恭裕	京都市立塔南高等学校校長	
石原 凌河	龍谷大学政策学部准教授	

1 開 会

2 挨 拶

委員長 天野 広一
南区長 古川 真文

3 議 題

- (1) 資料説明
- (2) 意見交換
- (3) 事務連絡

(2) 意見交換

①次期基本計画の構成案について

天野委員長

次期計画においても区民参加型で取り組んでいきたいので、言葉遣いは分かりやすく、柔らかい言葉、入りやすい言葉が大切だと思う。

石原委員

次期計画の構成は、現行計画よりも分かりやすくなった。地域力が全体にあり、それを達成するために各論として各分野が位置づいているという認識である。

一方で、取組の方針の中に「地域力」が落とし込まれると、全てが並列の関係に見え構成上、違和感がある。分野については、地域力ではなく「コミュニティ」や「まちづくり」などの項目が必要ではないか。

天野委員長

現計画の策定に携わっていた時は、取組の方針について「できたもの」「できなかったもの」の仕分けを行った。継続するのか、拡大していくのか、内容を充実させていくのか、という点検が必要である。

言葉を柔らかくし、協力頂ける年代を広げることが重要である。みんなが取り組んでもらえるような言葉遣いを大切にしてほしい。

田中委員

「区民が主役」というメッセージを全面に出していきたい。

取組の方針になると未来像が並列に見えてしまうため、「地域力」がベースとなっていることが分かるような見せ方にしてほしい。

天野委員長

キャッチフレーズについて、南区は京都市の玄関口として、歴史、伝統、文化が息づき、世界遺産である東寺はランドマークである。新しい玄関口として南を向いているなどの要素がある。その他にも各学区からキャッチフレーズの提案してもらったらどうか。

田中委員

山科区や下京区のキャッチフレーズはピンとこない。分かりやすいものであってほしい。

石原委員

現行計画は「公共交通」が柱になっているが、次期計画では削除されている。天野委員長が仰った「南区は京都の玄関口」として、公共交通の項目をなくしてもいいのか。各論に落

とし込まれていると思うが、分野の中には公共交通の項目があってもいいのではないか。

田中委員

祥豊, 祥栄, 上鳥羽などの京都駅から離れている場所では不便だと思う。交通に関しては、学区ごとに区民の思いが異なるのではないか。

天野委員長

今後、バスは増便するのか。

古川区長

バスの運転手、整備士不足が深刻であり、これ以上需要が増加しても人手不足なのでこれ以上どうすることもできない。仮に人手不足が解消されバスの本数が増加しても車庫スペースがない。

私見であるが、これ以上増便することは難しい状況である。何かをつくって何かを壊すスクラップアンドビルドが現実的ではないか。

公共交通について、市バスは黒字だが地下鉄は債務が膨大で京都市全体に係る問題である。

田中委員

十条より南側や西大路通りから西側などのエリアにおいて、交通手段を市バスに変えることは難しいが、年齢層によって求める交通手段も異なる。

上鳥羽の介護施設で買い物支援としてコミュニティバスの運行を行っている。社会福祉法人と地域が連携しそのような取組を広げられないか。

石原委員

公共交通は、市バスや地下鉄だけの話ではない。次期基本計画の間には、無人運転のバスなど交通モードが変化するのではないか。市バスの路線にこだわらずに、新しい交通体系や民間と協働で取組むコミュニティバスなどに紐づけて大枠で考えることが重要である。将来の交通の発展を見越して考えられると現実的である。

天野委員長

伏見区では、黒字でコミュニティバスを運行しているエリアがある。市バスや京阪バスの廃止に伴い、自主運行のコミュニティバスを運行している。南区も検討していく必要があるのではないか。次期計画には公共交通の項目がないことは気になる。

南区警察署の前のパケットというスーパーの工事に伴い、スーパー難民となった。南区でも個人商店が減少しているため、大型スーパーが使えなくなると買い物難民が発生するの

ではないか。

事務局

次期基本計画は、みんなで取り組んでいくことを重視している。公共交通は行政が担う役割が大きいため、行政が何をするのかという側面が大きくなる。次期計画では、みんなで取り組んでいくことをメインに打ち出し、各論にハード面を入れ込んでいく予定なので、未来像の一つとして公共交通を上げるのではなく、各論に入れるべきではないかと考えている。

石原委員

公共交通は、「健やかに暮らせるまち」の分野には入れ込むべきではないか。

事務局

「健やかに暮らせるまち」や「活力あふれるまち」の分野に入れ込むことを検討する。

矢田貝委員

未来像について、輪っかになっている部分がつながりを示しデザイン的にも分かりやすい。

植松委員

イベント時に実施したアンケートでは、大事にしたい・もっと良くなってほしい分野が「安心安全」や「福祉」が上位かと思ったが、「子育て」の分野が上位だったことが印象深い。その結果が未来像に反映されているのだと感じた。また、中学生・高校生の結果について、若者の興味関心は「環境」の分野が上位となっており、自分達が将来、持続的に生きていくために、更には次の世代まで考えているのではと感じた。

事務局

今回の資料では意見を抜粋しているが、アンケートの書きぶりを見ていると南区についてどうしていきたいかということを真剣に考えてくれた。意見の一つに、大人が計画をつくるのではなく子どもの意見も聞いてほしい、みんなでつくってほしいという声があった。

若者の視点では「環境」に最も関心が高いという結果を活かしたい。

小野委員

環境や公共交通以外にも SDG s や人生 100 年時代などもある。また、若者は車を持たずにカーシェアリングが流行っている。

公共交通は未来像のなかで扱うテーマではなく、各分野に落とし込むことで良いと思う。文化芸術も大切な視点だが、「舞い咲くまち」というタイトルの「舞う」がピンとこない。

シンプルな言い方が良いと思う。

子育てに関しても5年後、10年後に社会を支えていく方々の話なので、小さい時の体験や地域からの支援などから、地域全体で若者を見守るという感覚につながると思うので大切にしていきたい。

天野委員長

アンケートの結果を通して、守っていくもの、受け継いでいくものの思いが表れている。守っていくために何をすべきか、ずっと住み続けてもらうために何をすべきかを次期計画で提案してもらえると良い。

若者の意見は本当に貴重である。南区には大学がないので、中学生・高校生の意見を大切にしていきたい。

山田（信）委員

現行計画に比べて、次期計画は分かりやすくなった。

山田（正）委員

私も同じ意見で、取組の方針について並列ではなく地域力が全てを包含しているような見せ方になると良い。

野村委員

未来像について、地域力を真ん中に置いてあるのが分かりやすい。

天野委員長

次期計画の構成について、取組の方針については少し修正が必要だが、おおむね委員の皆様から理解を頂いた。

②次期基本計画の取組内容について

石原委員

少し違和感があったのが、P 4、③健やかに暮らせるまち、1. 高齢者が住み慣れた地域でいきいき健やかに暮らせる地域づくりについて、具体的な取組が詳細でいいなと思った反面、P 8、⑤いのちと暮らしを守るまち、1. 災害に強いまちづくりについては、具体的な取組の内容が上辺的で薄い。具体的な取組内容のレベル感がバラバラで分かりにくい。

区民・事業者、行政が取り組むことが分けているのは良いが、全ての項目にあるがゆえに無理がある。例えば、P 6、④活力あふれるまち、1. 都市の活力を支える産業の活性化について、区民・事業者が取り組むことは、無理くりつくっているような印象を受けたので、無理に全ての項目に入れる必要はないのではないか。

天野委員長

現計画の取組内容について、民間事業者への訪問を行っているが継続してやって頂けるということによいのか。

事務局

「南区企業の“知”の活用促進事業」で継続する形となる。

石原先生のご指摘の通り、災害の部分の取組内容が薄いのもう少し充実させる。

天野委員長

今後は特に天災について考えていく必要がある。地震が起こった際に、行政職員は市役所に来れるような体制になっているのか。

事務局

職員が自宅からどれぐらいの時間で来れるのかは把握している。

天野委員長

唐橋学区では避難訓練を実施したがその時に感じたこととして、地震の規模や地域の被災状況などの情報発信が重要になる。

伏見区は水防団があるが、南区には水防団がないので鴨川や桂川が氾濫しても消防団が対応することになっている。災害の時は消防団がすぐに対応できるのか分からないため、避難訓練の際は、消防団がいないものとして訓練を行った。

災害時に備えて、企業と提携しているのか。区民には認知されていたので、公表してもらえるような仕組みをつくってほしい。

事務局

水災マップを各住戸に配布している。危険箇所が多いため、企業と連携し災害時の避難場所として協力をお願いしていく必要がある。

天野委員長

吉祥院、久世、上鳥羽、祥栄などの地域は川に近いこともあり水害に気を付ける必要がある。

小野委員

P 3、②子ども・若者が育つまち、3. 地域での子どもの見守り活動の推進について、具体的な取組内容の中に、学校運営協議会を中心に学校と地域が協力した取組の推進とある

が、見守り活動だけではなくその他にも活動を行っているので、この項目は2. 子どもの学びを地域で支えるに入れ直してほしい。

天野委員長

先日、はぐくみネットワークの会合に参加し、PTA等の活動に関して考えていくべきだと感じた。共働きや単身世帯が増えているなかで、PTAコーラスやバレーボール大会など練習日があっても参加できず、また練習に行けても本番に行けないという人もいる。レクリエーションとして取り組んでいるが時間の調整が必要である。

見守り活動についても地域に頼る必要がある。

小学校・中学校においても働き方改革が進んでいるが、その一方で先生と地域とのつながりが薄れている。土日に開催される行事ごとに参加いただけるのかという話も出ていた。

石原委員

全体を通して、働き方改革や災害の多発、少子高齢化など全ての項目が時代背景を含め、取組を見据えた方が良いのではないかな。

次の10年は更に時代が読めないで、そのようなことを見越して、考えた方がより現実的な施策ができるのではないかな。例えば、空き家の問題なども新たに追加すべきではないかな。

天野委員長

唐橋学区では空き家の所有者の確認や、パトロールを実施している。空き家所有者が改築し、民泊が増えていることも問題になっている。

年間4～5万円の補助を受け、夜のパトロールや研修などを実施している。取組の背景として、空き家の台風被害がきっかけとなった。

唐橋学区では、空き家の所有者は把握している。学区ごとに空き家対策に取り組めないかな。

事務局

空き家の状況について、平成30年時点で総住宅数が56,780軒に対して空き家は、8,420軒で空き家率は14.8%となっている。東山区が最も多く、南区は2番目に多い。最も低いのは西京区である。

天野委員長

西京区は、洛西NTに空き家が多いと聞いている。

P10、⑦美しいまちについて、他の学区にはない一斉清掃に取り組んでいるが、もう少し異なる取組や学区ごとの取組などがあれば加筆したい。

山田（正）委員

先日開催された「みなみなみなみ」では、南区らしさとは何かという議論になった。南区らしさが見えづらいが、多様性を受け入れるという特徴があるという意見があった。次期計画の中には「南区はこんなまち」「南区だからできること」を盛り込むことで、南区らしさが醸し出されるのではないかと。

また、南区には多くの外国人がいるため多様な人が安心して住みやすいまちにしたかどうかという意見もあった。その延長線上に、高齢者や障がい者などどんな人でも安心して住めるまちとなれば素敵なまちになる。

天野委員長

高齢者や在日外国人をはじめ多様な方が一緒になって住んでいることが南区の特徴である。

石原委員

P 1, ①みなみ力が息づくまちについて、前回の委員会の時にも触れたが、地域の愛着・誇りを醸成するような取組があればいいのではないかと。

天野委員長

高速の出入り口付近に南区の目印があればいいのではないかと。

南区には世界的な企業が集積している。そのような企業と高校が連携した取組も今後展開できればと思う。

南区の特徴である出生率の高さについて、これは住みやすさの表れか。

事務局

比較的、住宅の値段がリーズナブルで若い世代が購入しやすい価格帯だからではないかと考えている。最近では、市内で比較すると地価公示が最も低かった 2013 年と比べると、1.9 倍上昇している。

若者が多い理由として仕事や交通機関に恵まれていることや区画整理により比較的大きな公園があることも考えられる。

天野委員長

山田（信）委員、南区に住みたいと思うか。

山田（信）委員

現在は滋賀県に住んでいるが、交通の便と静かさが大切だと思う。南区は、国道から一本入るととても静かで区画整理に伴い良好な住環境がある。

田中委員

P 4, ③健やかに暮らせるまちについて、高齢者の力をもっと発揮できるような環境にならないか。高齢者の話になると、高齢者を皆で守っていかうとか至れり尽くせりの環境であるが、周囲には元気な高齢者が多くこれからも寿命は延びていくと思う。

区民・事業者が取り組むことの中に、「高齢者の知識、経験、特技を生かし、高齢者相互の交流や地域の関わりをつくる」と書いてあるが、高齢者の力を借りて様々な取組に結びつけてはどうか。高齢者が出来ることを伝えていくことも必要である。

天野委員長

高齢者の活躍の場について、小学校に昔遊びを教え文化継承を図っている。歴史の語り部さんに来てもらってはどうか。

山田（正）委員

高齢者の雇用について、地域には働く企業や会社が多くあることを考えると高齢者が働ける仕組やつながる仕組があると良い。

特に地域の企業は、働き手不足で悩んでいる。仕事は多くあるが働く人がいないという中で、高齢者と企業をつなげるような仕組があると地域活性につながる。

田中委員

高齢者雇用もしかり、地域に貢献するような取組を行っていくべきだと感じる。

学生だけでなく高齢者も含めて皆が役割をもって参画できるような仕組みをつくっていくべき。

石原委員

学生がまちづくりに参画できるような、また基本計画においても勝手に決めるのではなく学生も参加しながら学生の意見も反映できるような工夫が必要である。

塔南高校も防災の取組に頑張っていると聞くので、特に災害に強いまちづくりはあらゆる人が参加する必要があるため、その点もうまく様々な人が関わられるような工夫が必要である。

事務局

アンケート結果でも様々な意見を頂戴したので基本計画に反映させていく。

高齢者に関して、高齢者を見守り、支え合うというフレーズについては当然だが、「高齢者も主役」という打ち出しも入れる。

田中委員

高齢者のパワーを使わない手はないと思う。

天野委員長

先日の「みなみなみなみ」においても、中小企業家同友会をはじめ地域で頑張っている団体が多いのでもっと利用させてもらえればいいのではないかな。

事務局

「みなみなみなみ」におけるパネルディスカッションで感じたことは、すでにいる方も新しく入ってくる方も様々なチャレンジが出来ることが南区らしさなのだと思う。暖かく受け入れて下さる地域の方々も南区らしさだと思う。

矢田貝委員

防犯について、防犯メール以外にも高齢者にも分かりやすく発信ができれば良い。

住み始めて7年目だが、当初は子育てサロンがどこにあるかも分からなかった。たまたま区役所で知り、周辺にも様々な子育て施設があることを後から知った。例えば、母子手帳を交付する際に子育て施設の案内を同封するなどの工夫が必要ではないかな。

交通ルールについて、横断歩道で歩行優先なのに止まらないことも多く、レンタサイクルを利用する外国人も交通ルールを理解していない。ステッカーを張るなど工夫が必要。交通ルールを改善して欲しい。

古川区長

交体協が自転車マナーの啓発に取り組んでいる。その点も計画に反映する。

田中委員

駐車違反や交通マナーを守る啓発活動も必要である。

子育てサロンの取組について、広報している立場からすると広報をしているがなかなか区民に届かない。回覧版で回しているのになかなか読んでもらえない。また、社会福祉に関する情報を発信するHPを作成したが、そのHP自体が広報できていない。

山田（正）委員

京都駅東部エリアについて、芸術の拠点とはいつごろにどんな取組を行うのか。

何か核となる取組があった方がいいのではないかな。

古川区長

具体的な施設の計画があるわけではなく、文化芸術を誘導していこうというものである。

天野委員長

文化芸術活動では、南の文化祭（高齢者の作品展示）の継続や拡大などはいかがでしょうか。

田中委員

南区での祭りや神輿保存会など一緒になって広報することも必要ではないか。各団体が継続的に取り組んでいけることも考えていければ良い。

小野委員

P 9, ⑥文化が舞い咲くまちについて、記述が少ないように感じる。伝統文化等もあるが、日々の暮らしの中に息づく文化も次世代に引き継いでいくという視点も大切ではないか。

子育て若者について、高齢者の知恵も含めて地域全体で子どもを見守ることができればよい。

様々な人が安心して暮らせるという視点では、引きこもりや悩みを抱えている方など様々な立場の方の理解を促し安心して暮らせるまちという視点も重要ではないか。

事業の継承という点で、産業を次世代につなげていく、若者の企業を応援、チャレンジできるまちというような視点も必要ではないか。

山田（正）委員

活力あるまちについて、京都市において「地域企業宣言」というものがありその言葉を入れて頂きたい。地域を取り巻く企業がみんなで一緒になって南区をつくっていくというような風土をしていけたらいいと思う。地域企業が地域を盛り上げるという視点を取り入れられたらと思う。

同友会では、お祭りをしたいという話のなかで花火を上げたいという意見があった。花火をあげて心をつにできるような活動ができれば求心力が高まるのではないか。

植松委員

農業について、教育とも関係してくるので子ども・若者が育つまちとの関連するのではないか。地域と小学校が連携し農業体験を開催しているが、もう少し広がりができればと考えている。

山田（正）委員

コーポレートカラーではないが、南区のイメージカラーをつくって、南区が分かるような仕組みをつくってはどうか。例えば、紫とオレンジのラインとか。

古川区長

あまり詳しくないが、屋外広告物協定で難しいかもしれない。

矢田貝委員

遊び場がない。南区で遊び場を検索すると、防災センターがトップに出てくるが社会見学で行ったことがある。今の時期は寒いですが、家の中でゲームしてばかりなので外で遊んで欲しい。例えば、地域の企業と協力しスタンプラリーができるようなイベントが開催できればと思う。

もっと南区に遊びに行ける場所が出来たらいいと思う。公園は多いがボール遊びが禁止などと制約が多い。

南区ふれあいまつりに行った際に、無料で手作り体験ができた。遊び場だけでなく体験できる場所があると良い。

天野委員長

本来は児童館が担う役割ではあるが。

矢田貝委員

お年寄りふれあいサロンで子どもと高齢者が交流している。そのように子どもと高齢者が交流できる場があれば、高齢者も積極的に外に出てくれるのではないかな。

一斉清掃においても、同じメンバーしか参加してないため、何か特典があれば参加しやすくなるのではないかな。

田中委員

キャッチフレーズについて、例示しているような分かりやすいものが良い。

「みんなで取り組む 誰もが住みやすいまち 南区」など

事務局

活力あふれるまちについて、さらに南区が活力あるまちにするにはどうすれば良いかな。

山田（信）委員

高齢者も活躍できる、子どもも活躍できるといったように、やってもらうのではなく自分がやる側になるという意識が大切である。

事務局

P 8、⑤いのちと暮らしを守るまちについてどうすれば良いかな。

石原委員

1. 災害に強いまちづくりの推進について、前回の委員会で「レジリエンス」という言葉

や辞めた方がいいと言ったが、要素は必要だと思う。レジリエンスとは、地震で被害が生じることが避けられないとしても早く回復させることが重要という概念である。例えば、行政が機能不全に陥らないように日頃から備えること、すぐに避難所に駆け付けられるように地域と連携をとる、一部の人だけでなく若い人も含めて消防団とともに避難訓練に取り組むなど事前の対策のみならず事後の対応も含めて災害に強いまちづくりとして打ち出せばいいのではないかな。

防災情報の共有と簡単に書かれているが、もう少し具体化した方がいいのではないかな。

3. 安全、快適にいつでもできる道路空間の整備でいうと、道路空間の整備では、道路空間だけでなく鉄道やバスなどあらゆる公共交通が安心して移動できるという点を打ち出せばいいのではないかな。あるいは「歩くまち京都」に照らし合わせて、公共交通の利便性を高めるためにマップづくりなどのソフトも含めて打ち出した方がいいのではないかな。

天野委員長

災害ゴミについて、緊急車両が通ることを考えてゴミの置き場を指定しておく必要があると思う。まずは生活基盤として道路のごみは移動させることを行政から推進してもらいたい。

避難所について、ペットをどうするかという議論もある。

石原委員

京都市では避難所の訓練やマニュアルなども作成しているが、学区、地区単位で防災に取り組んでいく必要がある。

天野委員長

各学区の避難所や緊急連絡先、災害ゴミの置き場などの情報をまとめたものをつくってはどうかな。

事務局

今後、みなみ力を継承していくためにはどうすれば良いかな。

田中委員

自治連合会や各団体が意識を持っておく必要がある。次期基本計画を活用し意識を共有すべきではないかな。合わせて、次期基本計画が出来たら自治連合会や各団体にも周知する必要がある。

野村委員

次期計画が自治連合会や各団体以外にも広く区民まで広がるように周知していく必要がある。

ある。

天野委員長

南区は15学区とまとまりやすい。連合会長の皆さんはみなみ力を意識して頂いているので継承できると思う。みなみ力はいい言葉なのでこれからも継承していきたい。